

## Y5-9

### 新型インフルエンザA (H1N1) 対応の実際

大田原赤十字病院 医療安全推進室

○仲澤 恵、藤田 明美、薄井 啓一郎、高野 尊行、  
中蘭 健一、阿久津 郁夫

【はじめに】 2009年春、出現した新型インフルエンザA (H1N1) はICTが中心となって対応してきた。これまでの職員の集団感染事例や、入院受け入れ、発熱外来でのトリアージ、ワクチン接種などを経験した。今回、新型インフルエンザA (H1N1) 対応の実際について述べたい。

【職員の集団感染事例】 2009年8月、職員10名、患者1名、計11名がインフルエンザを発症するという、集団感染が発生した。徹底した感染拡大防止対策によって、1週間で終息した。

【入院患者の受け入れについて】 2009年5月16日、保健所からの依頼により、当院での初の新型インフルエンザ疑似症患者の入院を受け入れた。その後は感染者数の増加に伴い、当院は、重症患者の入院のみを感染症病棟に受け入れた。その結果、2010年4月1日までに入院した患者は50名だった。

【外来でのトリアージ、専門外来について】 インフルエンザ様症状のある患者と一般患者の診療を区別し、院内での感染拡大を予防するために、院内の出入りに近い場所に、専門外来を設置した。2010年4月1日までに、日中の専門外来受診者は856名で、うち207名がインフルエンザ迅速検査で陽性およびインフルエンザ疑似症と診断された。

【ワクチン接種について】 当院は受託医療機関のパターン3であり、県のワクチンスケジュールに沿って、優先接種対象者である、医療従事者への接種から始め、次いで基礎疾患を有する入院患者と外来患者への接種を行なった。

【おわりに】 今回経験した、新型インフルエンザA (H1N1) 対応を、今後、起こりうるトリインフルエンザA (H5N1) 対策に役立てたい。そして、変化する情勢や感染にまつわる様々な問題に対し、柔軟に対応できるようにICTによるチーム医療を成熟させていきたい。

## Y5-10

### 芳賀赤十字病院における新型インフルエンザ陽性者の概要

芳賀赤十字病院 医療安全推進室

○野澤 寿美子、関澤 真人、黒川 敬男、高木 弥生、  
金澤 靖子、佐藤 寛丈、近藤 義政、岡田 真樹

【はじめに】 新型インフルエンザに係る対応について（平成21年4月28日健感発0428003号厚生労働省健康局長通知）が出され、当院においても4月28日に新型インフルエンザ対策本部を立ち上げ、ICTが中心となり新型インフルエンザ対応を行った。当院の新型インフルエンザ陽性者の概要をまとめたので報告する。

【インフルエンザ迅速検査 検体数】 2009年4月～2010年5月3195検体（うち小児検体2195）2008～2009でのインフルエンザ迅速検査数は1100検体（うち小児735）。

【インフルエンザ迅速検査結果】 A型陽性474件（小児：387成人：87） B型陽性17件（小児：14成人：3）

【A型陽性患者の平均年齢】 11.18±11.97歳（0歳～86歳）

【A型陽性患者の性別】 男性246件（52%）女性228件（48%）

【当院でのインフルエンザA型陽性の発生】 2009年7月15日早朝救急車来院した、熱性けいれんの7歳女児が当院ではじめての発生となった。翌日その家族2名（母34歳兄8歳）からインフルエンザA型陽性が検出された。

【A型陽性またはA型疑いで入院患者】 110人（成人6名：うち3名は妊婦）

【月別検体数とインフルエンザ迅速検査A型陽性者数、新型インフルエンザ、疑いで入院患者数】 4月（74、0、0） 5月（141、0、0） 6月（102、0、0） 7月（140、3、0） 8月（212、9、0） 9月（290、11、4） 10月（399、73、12）

11月（568、193、47） 12月（501、125、25） 1月（351、50、10） 2月（260、10、2） 3月（134、0、0） 4月（16、0、0） 5月（7、0、0）

【まとめ】 新型インフルエンザ対策本部を設け、ICTが中心となり院内の対策をおこなった。対策本部を設け、常にコミディカルで意見を出し合ったことで、院内感染等の問題がなく、対応できたと考える。

## Y5-11

### 新型インフルエンザに関する外来での電話の問い合わせの現状調査

仙台赤十字病院 外来

○齊藤 政子、菊池 真紀子

【目的】 目的は、新型インフルエンザに関する外来での電話の問い合わせに焦点をあてて現状調査をし、今後のインフルエンザ対応の一資料とすることである。

【方法】 対象者：A病院の外来看護職・事務職。期間：2010年1月19日～22日。調査方法：実際にあった電話の問い合わせ内容を基に作成したアンケート調査。分析：単純集計。倫理的配慮：回答は統計処理を行い個人が特定されないこと、協力は自由で不参加の場合不利益がないことを質問紙に明記して、回答をもって同意とした。

【結果】 アンケート配布50名、回収43名（回収率86%）、有効回答31名（有効回答率72%）であった。1件の電話に要する時間は、「1～5分未満」18名（58%）、「5～10分未満」8名（26%）、「15分以上」4名（13%）の順であった。内容は、「ワクチン接種の優先順位」27名（87%）、「ワクチン接種時期」26名（84%）、「感染疑いの受診」25名（81%）の順であった。

【考察】 「ワクチン接種の優先順位」について様々な情報提供があったにもかかわらず病院に電話をかけてきたことは、患者が一刻でも早くワクチンを確保して安心する為に問い合わせていると思われる。場合により対応に時間を要するのは、問い合わせの返答とワクチン接種時期や受診方法などが報道内容と食い違い、納得できないことが考えられる。

【結論】 電話での問い合わせ内容で最も多かったのは、「ワクチン接種の優先順位」であった。問い合わせに関する窓口の設置や対応人数の調整をしてゆとりのある対応をするなど、今まで以上に組織的に取り組むことの必要性が示唆された。

## Y5-12

### 新型インフルエンザワクチン接種～診療業務への影響を抑えた取り組み～

石巻赤十字病院 医事課

○今村 正敏、續 智美、阿部 江津子、佐藤 嘉伸、  
佐々木 功

2009年10月から供給が開始された新型インフルエンザワクチンは、厚生労働省から示された「接種スケジュール」に基づき全国の医療機関においてワクチン接種が行われた。しかし、絶対的なワクチンの供給不足やマスコミの先行報道などによる情報の錯綜により、接種希望者からの問い合わせや苦情が殺到したために、多くの医療機関において通常の診療業務に支障を来すなどの混乱を招いた。

このような状況の中、石巻赤十字病院医事課では、2009年10月からワクチン接種の対応についてICTなど院内各部署とともに、診療業務への影響を最小限に抑えることを最優先に対策の検討を開始した。まず、接種対象者は、かかりつけ患者の基礎疾患の緊急性や重要性の高さを考慮した優先接種者の絞り込みを行った。その後事務部全部署の協力を得て約2,000件にも及ぶ患者宅への電話連絡を行い、日勤帯から連絡のつきやすい午後8時頃まで接種希望の確認や予約受付を実施した。さらに、医師や看護師などにも協力を求めて院内の実施体制を確立させて、病院業務に影響の少ない休日にワクチンの集団接種を実施することが可能となった。

しかし、優先接種者の絞り込みを事務的な病名検索のみで行ったため、実質的に同じ傷病内容であっても同一病名で登録されていない事例では、本来優先接種者に該当するはずの患者が接種対象から漏れるなど一部課題は残った。当院では院内各部署と連携しながら積極的に対応した結果、ワクチン接種期間中は通常の診療業務に大きな支障を来すこともなくワクチンの接種を実施することができた。今後も同様の事例が発生する可能性が高いことから、今回の取り組みが多く病院で参考になるものと考えている。